

日本WHO協会の活動にご協力ください

Friends of WHO Japan



公益社団法人

日本WHO協会

WWW.JAPAN-WHO.OR.JP



公益社団法人 日本WHO協会は、世界保健機関（WHO）憲章の精神を普及徹底し、世界の人々の健康増進に寄与することを目的として設立され、現在、人材育成事業等の5つの活動に取り組んでいます。

当協会の活動にご賛同いただける方は是非会員（正会員、賛助会員）として私共の活動にご参加ください。また、当協会ではこれらの活動を推進するために広く善意の方々のご寄付を募っています。法人、個人を問わず一人でも多くの方々のご協力を心からお待ちしております。

役員

理事長	中村安秀	大阪大学名誉教授
副理事長	更家悠介	サラヤ(株)代表取締役社長
業務執行理事	巽 昭夫	(一社)生産技術振興協会 執行理事兼事務局長
業務執行理事	新居誠一郎	新居合同税理士事務所 代表税理士
理事	乾 英夫	(一社)大阪府薬剤師会会長
理事	岩本洋子	岩本法律事務所弁護士
理事	上山直英	大日本除虫菊(株)代表取締役社長
理事	大谷順子	大阪大学教授
理事	小笠原理恵	大阪大学特任講師(常駐)
理事	小田節子	ポリグル・ソーシャルビジネス(株) 代表取締役社長
理事	阪田敦視	(株)プロアシスト代表取締役社長
理事	澤 芳樹	社会医療法人警和会 大阪警察病院院長
理事	中尾正俊	(一社)大阪府医師会会長
理事	深田拓司	(一社)大阪府歯科医師会会長
理事	松浦成昭	大阪国際がんセンター総長
理事	安田直史	近畿大学教授
理事	大和泰隆	NPO法人エコデザインネットワーク 理事
理事	山本尚子	国際医療福祉大学大学院教授
監事	河内 保	文殊総合法律事務所弁護士
監事	南方得男	みなかた公認会計士事務所代表

(2024年7月現在)

連絡先；〒540-0029
大阪市中央区本町橋2番8号 大阪商工会議所5F
電話06-6944-1110 FAX06-6944-1136

●入会のご案内

事業の一層の発展を図るため会員を募集しています。

【年会費】	個人	法人
正会員	50,000円	100,000円
賛助会員 (学生)	1口 5,000円 (2,000円)	1口 10,000円

※正会員は理事会の入会審査を経て承認されます。

●寄付のお願い

事業に必要な資金は主に会員の方々の会費および事業収入を充てていますが、今後さらにその内容の拡大・充実を図るには、寄付金が必要です。当協会の事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

皆様からお預かり致します寄附金は、当協会の「寄附金等取扱規程」に則り、有効に使用させていただきます。なお、当協会は、内閣総理大臣より「公益社団法人」としての認定を受けておりますので、**当協会への寄付金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。**

※賛助会員の会費も寄附控除が受けられます。



また、税額控除に係る証明(→右図)を取得しておりますので、個人様の寄付については前記(所得控除)とのいずれか一方を選択いただくことができます。くわしくは、当協会のWebサイトにある「**寄付金による節税効果のシミュレーション**」をご覧ください。

また、クレジットカードによる寄付もできるようにしています。くわしくは、https://japan-who.or.jp/m_subscription/subscription.htmlをご覧ください。

●ご送金方法

下記の銀行口座にお振込みください。口座名義は、「公益社団法人 日本WHO協会 ジャパンWHO協会」
※お振込みの前に、お名前、ご住所、ご連絡先(TEL)をお知らせください。(領収証をお送りするために必要です)

●銀行名：三井住友銀行 支店名：大阪中央支店(710) 口座番号：(普通) 8288488	●銀行名：りそな銀行 店番：大阪営業部(051) 口座番号：(普通) 0699291
●銀行名：ゆうちょ銀行 店番：099店(099) 口座番号：(当座) 0135534	

ごあいさつ



公益社団法人 日本WHO協会
理事長 中村 安秀

皆さま方には、公益社団法人日本WHO協会に格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2018年6月18日に開催された理事会・社員総会において選任・承認され、日本WHO協会理事長に就任いたしました。關淳一前理事長が8年間にわたり本協会の活動の活性化と組織の透明性の確保にご尽力され、公益社団法人としての社会的な責務を果たし着実な成果を重ねてまいりました。關前理事長が築かれた確固とした基盤をもとに、会員や賛助会員の方々とともに新たな一歩を踏み出していくことに身が引き締まる思いです。

2015年には、国連総会において「持続可能な開発目標(SDGs)」が提唱されました。保健医療や貧困対策、教育、環境などの分野で、政府だけでなく民間企業や市民社会が協働して、2030年までに「だれひとり取り残さない」社会を創ろうという壮大な試みです。

日本WHO協会は、国際連合の専門機関である世界保健機関(WHO)の行っている活動や情報を多くの人びとに迅速かつ適切に伝えるという設立時からの使命を担っています。また、民間企業、病院や大学や研究所、NGO/NPOなどの市民社会とのネットワークを強化するとともに、海外に羽ばたこうとしている若い世代の育成にも注力していきたいと考えています。

今後も、皆さま方のご理解とご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

2021年6月

沿革

1948 世界保健機関(WHO)設立
1996 WHO健康開発総合研究センター開設

- 1965 社団法人日本WHO協会設立(本部;京都)
- 1966 世界保健デー記念大会事業を開始
- 1981 老人問題に関する神戸国際シンポジウム開催
- 1985 健康相談室開設。中高年向け健康体操教室開講
- 1998 WHO創設50周年シンポジウム開催
- 2000 WHO健康フォーラムを全国各地で開催
- 2006 事務局を京都から大阪へ移転
- 2007 財団法人エイズ予防財団(JFAP)への助成開始
- 2008 事務局を大阪商工会議所内に移転。
- 2009 『目で見えるWHO』を復刊。パンデミックとなったインフルエンザ対策セミナー開催
- 2010 WHO神戸センターのクマレサン所長を招き、フォーラム「WHOと日本」を開催
- 2011 日本国際保健医療学会学生会部との共同企画開始
WHOインターンシップの支援開始
メールマガジン配信開始
- 2012 公益社団法人へ移行
WHO神戸センターのロス所長を招き禁煙セミナー開催
- 2013 第5回アフリカ開発会議(TICAD)公式サイドイベントとしてフォーラム開催
- 2014 WHO本部から発信されるファクトシートの翻訳
出版権を付与される
- 2019 「関西グローバルヘルスの集い」開始
- 2020 ラオス小児外科プロジェクト
医療従事者応援はがきプロジェクト開始
- 2022 「世界保健デー」イベントが復活。

第二次世界大戦後の硝煙さめやらぬ1946年7月22日、世界の61カ国がニューヨークに集い、すべての人々が最高の健康水準に達するためには、何をすべきかを話し合い、その原則を取り決めた憲章が採択され、1948年4月7日国連の専門機関として世界保健機関WHOが発足しました。

当協会はこのWHO憲章の精神に賛同した人々により、1965年に民間のWHO支援組織として設立され、グローバルな視野から人類の健康を考え、WHO精神の普及と人々の健康増進につながる諸活動を展開してまいりました。

歴代会長・理事長、副会長・副理事長(在職期間)

会長/理事長

- 中野種一郎(1965-73)
- 平沢 興(1974-75)
- 奥田 東(1976-88)
- 澤田敏夫(1989-92)
- 西島安則(1993-06)
- 忌部 実(2006-07)
- 宇佐美登(2007-09)
- 関 淳一(2010-18)
- 中村安秀(2018-)

副会長/副理事長

- 松下幸之助(1965-68)
- 野辺地慶三(1965-68)
- 尾村偉久(1965-68)
- 木村 廉(1965-73)
- 黒川武雄(1965-73)
- 武見太郎(1965-81)
- 千 宗室(1965-02)
- 清水三郎(1974-95)
- 花岡堅而(1982-83)
- 羽田春免(1984-91)
- 佐野晴洋(1989-95)
- 河野貞男(1989-95)
- 村瀬敏郎(1992-95)
- 加治有恒(1996-98)
- 坪井栄孝(1996-03)
- 堀田 進(1996-04)
- 奥村百代(1996-06)
- 末舛恵一(1996-04)
- 中野 進(1998-06)
- 高月 清(2002-06)
- 北村李賢(2002-04)
- 植松治雄(2004-06)
- 下村 誠(2006-08)
- 市橋 誠(2007)
- 更家悠介(2008-12)
- 生駒京子(2018-23)
- 更家悠介(2018-)

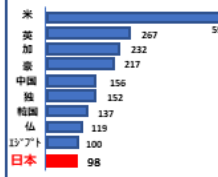
事業活動

WHOの行っている活動や情報を多くの人びとに迅速に適切にお伝えするという使命を担っています

WHOインターンシップ^o支援

国際保健医療分野に
羽ばたく若者を支援

国別インターン数(2015-2018)



jaih-s(国際保健医療学会学生会部)と共催

共催フォーラム開催

感染症(2020)、2025問題(2019)、SDGs(2018)、UHC(2017)、命をつなぐ食(2016)、予防接種(2015)



関西グローバルヘルスの集い

グローバルヘルスに関する
諸問題を自由に議論をする場
(隔月開催)



フォーラム開催

世界保健デーのテーマや
市民ニーズの高いテーマで実施

- ・UHC/フレイル/認知症/うつ病/口の健康
- ・関西感染症フォーラム(毎年)

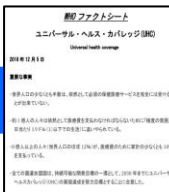


機関誌「目で見えるWHO」発行

(季刊)

ファクトシートの翻訳

2014年3月、WHO本部より翻訳権付与



人材育成

研究

啓発活動

Webサイト
メルマガ

WHOの主なニュースの翻訳・発信

年間約300件のニュースを発信